

ある看護科教員のアタマの中

7

～戴帽式とナイチンゲール誓詞～

山岸 若菜

はじめに

私が看護学生だった頃、戴帽式というセレモニーがありました。

白いナイチンゲール像が持つろうそくから、学生が一人ずつ自分のろうそくに灯をもらい、かつて看護師の象徴だったナースキャップを着けてもらって全員で『ナイチンゲール誓詞』を唱和しました。

真っ暗な中だんだん増えるろうそくの灯が厳かな雰囲気醸し出し、またこのセレモニーを終えるといよいよ実習が始まるということで、身が引き締まる思いがしたものです。

なぜそんなことを思い出したかというと、最近実習に行っていた病院で懐かしのナイチンゲール像に再会したからです。

今回はその戴帽式とナイチンゲール誓詞について書きたいと思います。

戴帽式の思い出

私が学生の頃の看護師は、白いワンピースにナースキャップ、白いストッキングにナースシューズといういでたちでした。

ナースキャップは広げるとT字形で、糊とアイロンでパリッパリにしものを上手いことあの形に折っていました。

ピンで髪に付けるのですが、ちょっとカーテンに引っかかったりすると、痛いたらありやしませんでした。

でもあれこそ看護師の象徴みたいなどころがあって、ナースキャップに付ける線で師長、副師長など階級がわかるようになっていました。

学生ながらに『ワンピースは動きにくくないのかな?』

『ナースキャップはどう考えても邪魔やろ。』

『白いストッキングなんてどこで買うん?』

などなど疑問がいっぱいで、私は看護師のユニフォームがあまり好きではありませんでした。

そんなちょっと引き気味の学生でも感傷的な気持ちになるのが戴帽式でした。

暗い中、クラス全員が灯のついたろうそくを持って、その日までに暗記したナイチンゲール誓詞を唱和するのです。

われはここに集いたる人々の前に厳かに神に誓わん。

わが生涯を清く過ごし、わが任務を忠実に尽くさんことを。

われはすべて毒あるもの、害あるものを絶ち、悪しき薬を用いることなく、また知りつつこれをすすめざるべし。

われはわが力の限りわが任務の標準を高くせんことを努むべし。

わが任務にあたりて、取り扱える人々の私事のすべて、わが知り得たる一家の内事のすべて、われは人に洩らさざるべし。

われは心より医師を助け、わが手に託されたる人々の幸のために身を捧げん。

何を言ってるのか当時はよくわかりませんでしたが、「なんかそれっぽいわ～」と感動したのを覚えています。

戴帽式とナイチンゲール誓詞の変化

今読むと当時のナイチンゲール誓詞は宗教的で自己犠牲を強要してるのか？！と思えるような文章ですが、内容は職業意識を高く持って、守秘義務守っていこ！ということなので、現代でも大事にしなければいけないものです。

現代ではナースキャップは不衛生で実用的でないと廃止したところがほとんどで、大学での教育も増えて戴帽式自体がほとんど行われなくなっています。

ナイチンゲール誓詞も現代版では

神とここに集う人々の前に厳かに誓う。

看護専門職の倫理規範を遵奉し。

忠誠心を持って看護チームの他のメンバーと共に協力し、監督者として指定された医師または看護者の指示に忠実に、そして己の能力に従って最善を尽くし、

一切の悪行や悪意ある行為をせず、意図しながら害のあるいかなる薬を与えることや不正行為には加担しないと。

職業上の知りえた秘密についてはこれを秘匿する。

そして全力を尽くし看護実践の標準と品位を高めることを、自分に誓う。

我が人生が看護専門職の仕事とその高邁な理想に捧げられんことを。

と、変更されているようです。

セレモニーで使うには前の方が良いのですが・・・。

看護師のいでたちもこの30年ほどでずいぶん変わりました。

ナースキャップは無くなり、ワンピース型のナース服は動きやすいスクラブに変わっています。

白いストッキングも見かけません。

ユニフォームやセレモニーは変化しても、病気で困った人たちに対して真摯に仕事をするという原則はこれからも変わらないでいてほしいと思います。